

(公社)神奈川労務安全衛生協会 藤沢支部 第5回 2026年 安全勉強会

皆さんこんにちは。公益社団法人神奈川労務安全衛生協会藤沢支部支部長代行を務めております、いすゞ自動車㈱の瀬喜です。

今年で5回目を迎えた恒例の安全勉強会を、6月26日に弊社藤沢工場で開催いたしました。この取り組みは、弊社が藤沢支部の支部長会社に就任した5年前、「掛け声だけで終わらない、実効性のある労働災害防止活動を実践したい」との思いから始めたものです。現場で働く方々の意識向上と災害防止を目的に、藤沢支部では3つの柱を掲げ、継続して活動を進めてまいりました。1つ目は、年間を通じた労働災害防止の注意喚起です。夏季の熱中症対策や年末の繁忙期対策に加え、クレーン災害、墜落・転落災害、はさまれ・巻き込まれ災害など、その時々々の災害傾向を踏まえた情報をタイムリーに発信しています。2つ目は、各種研修・教育を通じた注意喚起です。職長教育などでは、藤沢労働基準監督署ご協力の下現場目線で労働災害防止の重要性を直接お話いただき、受講者の安全意識向上につなげています。所謂ボトムアップ活動です。そして3つ目がこの安全勉強会です。藤沢労働基準監督署のご理解とご協力の下、地域の事業場が互いに学び合い、労働災害防止につなげる場として継続してまいりました。これからも藤沢支部は、地域に根差した実践的な安全衛生活動を着実に積み重ね、藤沢管内の労働災害防止に努めてまいります。

さて話は戻りますが、今年も多くの方にご参加頂きました。神奈川労働局をはじめ、藤沢労働基準監督署を筆頭に県内各方面の労働基準監督署の監督官の皆様、また藤沢支部会員の皆様など、総勢29名の参加となりました。昨年に引き続き、多くの皆様に関心を寄せて頂いていることを実感し、大変有り難く思っております。



森支部長のご挨拶



全員揃っての集合写真



当日のスケジュール説明

工場視察では、各工程の安全対策や設備管理について担当者より説明致しました。ロボット設備への立ち入り時のロックアウト・タグアウトの運用、重量物を扱う際の声掛けや退避ルール、安全を最優先とした設備設計など、実際の現場でどのように災害防止を図っているかをご覧ください。参加者からは、騒音対策、地震発生時の対応、腰痛予防、救命体制など、安全衛生全般にわたる多くの質問が寄せられ、活発な意見交換となりました。

今回、特に印象的だったのは『熱中症対策』への関心の高さです。工場では、工程ごとに飲水・休憩を確実に取れる仕組みを整え、作業環境に応じて空調服やエアージャケット等



暑熱対策用のビッグファン



熱中症予防ドリンク配布用ベンダー

を活用しています。また、工場内の空気を出来るだけ循環させ、暑さにムラが出来ないように工夫や、直射熱を抑えるための対策も進めています。フォークリフトにスポットクーラーを搭載するなど、作業される方々が少しでも暑さを軽減できるよう、現場では様々な工夫を重ねています。

こうして見ますと、一昔前とは比較にならないほど暑熱対策は進んでいます。しかし、近年の暑さは年々厳しさを増しており、過去の対策で十分ということはありません。安全とは設備だけではなく、そこで働く人を守る環境を整えることでもあります。今年の勉強会では、災害防止という言葉の中に、熱中症のように人の体調や環境に起因するリスクも含めて考える必要があることを、体感して頂いた事と思います。



安全伝承館 入口



過去の災害を体感する安全道場

後半はいすゞものづくりサービステレーニングセンター内の『いすゞ安全伝承館』をご視察頂きました。安全伝承館とは、いすゞ自動車のできた重大災害を忘れない、風化させない、そして安全第一であり続けることをテーマとした施設です。過去の災害事例や教訓を、映像やジオラマ、語り部による説明を通じて、次世代へ伝え続けています。

重大災害は、発生した瞬間だけが問題ではありません。被災された方、ご家族、職場の仲間、会社、そして地域にまで大きな影響を及ぼします。伝承館では、災害の事実だけではなく、その時に何が起こり、どのような悲しみや痛みが残ったのかを伝えています。この施設を出た後は、

重大災害は、発生した瞬間だけが問題ではありません。被災された方、ご家族、職場の仲間、会社、そして地域にまで大きな影響を及ぼします。伝承館では、災害の事実だけではなく、その時に何が起こり、どのような悲しみや痛みが残ったのかを伝えています。この施設を出た後は、

もう二度とこうした災害を起こしてはならないという気持ちがより一層強くなります。

今回参加された若手監督官や会員事業場の皆様も、安全文化や技術を継承する仕組みに高い関心を寄せられていました。安全は、設備やルールを整えれば終わりではありません。それを使う人、守る人、伝える人がいて初めて文化になります。意識を絶やさない仕組みをどう作るか。これは、企業だけでなく行政、協会、地域全体で考え続けるべき大きな課題であると弊社では重要視しています。

そして今年の勉強会を通じて、もう一つ大きな学びとなったのが『本質安全』という考え方です。本質安全とは、人の注意力や努力だけに頼るのではなく、危険そのものを設備や



ロックアウト・タグアウトの説明



プロジェクションマッピングによる注意喚起

工程から取り除いていくという考え方です。例えば、ロボット設備への不用意な立ち入りを防ぐロックアウト・タグアウト、加工機械のインターロック、従来人の手で行っていた作業の自動化、吊荷周辺への接近を防ぐ注意喚起など、危険を人の前に置かない工夫が重要になります。

もちろん教育や注意喚起は大切です。しかし、どれだけ教育を重ねても、人は疲れることがあり、慣れることがあり、思い込みをすることがあります。だからこそ『気を付けましょう』だけではなく、『気を付けなくても災害にならない仕組み』を作ることが重要です。今回、参加者の皆様からも本質安全に関する質問や意見が多く寄せられ、安全対策のあるべき姿について大変有意義な意見交換が出来ました。



松下署長による総括

一通り予定を終え、最後に藤沢労働基準監督署松下署長より総括を頂きました。技術や安全衛生の風土を伝承する取り組みに力を入れていることが印象的であり、新規入職者教育に課題を抱える企業も多い中、いすゞの取り組みは今後の指導にも参考になるとのお言葉を頂きました。また、若手監督官には、伝承館で学んだ『重大災害が起きると何が起こるのか』という視点を、今後の業務に活かしてほしいとの講評を頂きました。

安全は一日にしてならず、継続することで初めて根付くものです。藤沢支部としても、注意喚起、教育、安全勉強会という3つの柱をさらに充実させ、会員事業場の皆様と共に、藤沢管内はもとより神奈川県全体の労働災害防止に尽力して参ります。

最後に、本勉強会の開催にあたりご協力いただきました神奈川労働局、藤沢労働基準監督署をはじめ労務安全衛生協会及び藤沢支部会員事業場の皆様へ心より感謝申し上げます。皆様、ご安全に。